

8月に入り、毎日のように局地的豪雨が各地を襲っています。暑いのも大変ですが、ぼちぼち天候も安定してほしいですね。現在会員登録数1,485人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は9月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 48

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 子どもの本の展示とイベント：森と友だちになろう！

「森」をテーマに、「グリムの絵本」、「宮沢賢治の本」、「森の生き物の本」、「森の環境を考える本」など、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に所蔵されている明治時代から現代までの本約100点を展示します。

期 間：平成26年8月30日（土）～9月15日（月・祝）

午前10時～午後5時 水曜休館

会 場：EXPO'70パビリオン 1階ホワイエ（吹田市 万博記念公園内）

入場料・参加費：無料 ただし、万博記念公園自然文化園の入園料が必要

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

一般社団法人 関西環境開発センター

後 援：大阪府立中央図書館

助 成：日本万国博覧会記念基金事業助成金

会期中、下記イベントを実施します。

◇ エコクラフト「くるくる葉っぱ」を作しましょう。

◇ 万博の森へのメッセージコーナー

葉っぱの形をした紙に、万博の森へのメッセージを書いて、木の幹の台紙にはりつけてください。

◇ おはなし会「森のおはなし」

日時：9月7日（日） ①午後1時～ ②午後3時～

対象：幼児、小学生

出演：おはなしポップ

◇ 絵本づくりワークショップ「森の絵本を創ろう」

内容：落ちていた葉っぱなどを使って、森をテーマにした絵本を創ります。

日時：9月13日（土） 午後1時～4時

対象：小学生 30名（事前申込み先着順）

講師：土居安子（当財団 主任専門員）

お申し込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（金）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#31boshu](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#31boshu)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第28号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『そこから逃げだす魔法のことば』 岡田淳/作 田中六大/絵 偕成社

2014年5月 対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：おじいちゃんが孫に語る6つのほら話の連作集。表題作は、こたつで寝たらネコになってネコタツバアサンに出会ったという体験、そのほか、打ち出の小槌を拾ったり、安全ピンのセールスマンになって世界を旅したり、女神様からよく見える目をもらったり、しゃべるカラスと出会ったりする体験が語られる。

O：夏の暑い日に、オチでスッキリできる本を読んで楽しかった！関西弁のおじいちゃんと孫との掛け合いが軽妙で、おじいちゃんの余裕の受け応えが抜群でした。

Y：『願いのかなうまがり角』（2012年）の続編で、「ほら」にますます磨きがかかっています。「神戸新聞」に掲載された作品もあり、目神山など、阪神間の人には身近な場所も登場します。

O：1作1作の趣向が違うのもおもしろかったです。「ごはんを食べて寝ころんだら牛になる」という言い伝え、昔話に出てくる打ち出の小槌や雪女のもじりの雨女が登場する話、海賊に捕まる話、女神や話すカラスなど、既存の言い伝えや物語の世界を現代の世界にうまく持ってきてパロディにしている、巧みですねえ。

Y：そして最後はだじゃれのオチで終わる。

O：落語でつちかった芸のような語り口なので、声に出して読むと、また、違ったおもしろさがありますね。

Y：ひょうひょうとしたおじいちゃんと、かわいい顔をしてなかなかしっかり突っ込む孫の挿絵も、この世界を盛り上げていると思いました。小学校を退職され、子どもとの直接的な距離が遠くなられたこともあるのか、文体にもストーリーにも「ゆとり」を感じました。岡田作品の新境地と言えるのではないのでしょうか。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 48

\*\*\*\*\*

### その9 おはなしを語る（1）語りの魅力2

かつて大阪国際児童文学振興財団では、海外の児童文学研究者を招聘して大阪府立国際児童文学館で研究していただく外国人客員研究員制度があり、ナイジェリアのオセイウェンス・オサさんも6ヶ月間滞在されました。

オサさんには子ども向けのおはなし会に出演して、英語でおはなしを語っていただきましたが、母語でなかったにもかかわらず、次から次へと言葉が湧いて出てくるような語り口に、文字から覚えた語りとは全く異なる世界を感じました。

聞いているその時間と空間を満足させるために費やされるリズムカルな言葉や人物のせりふは、文字を読みなれている私たちが論理的に考えてしまうおはなし全体の構成やメッセージ性とは異なるところでおはなしの魅力を伝えてくれました。それは、語り手の声に身を任せ、語り手の見せる世界を体感するという経験でした。

オサさんは、当時はアメリカ合衆国の大学で教鞭をとっておられましたが、それでも語りの文化を引き継いでおられることが感じられました。おはなし会に参加した子どもたちは言葉はわからなくてもその語り口に魅入っている様子がうかがえました。

私たちは文字のない文化に立ち戻ることはできませんが、語りには語られている時だけが持つ計測不可能な豊かな時間があります。そして、それは、語り手の声によって紡がれます。語られている時間には語り手と聞き手の間に、語り手の話を信じて一緒に楽しむという特別な関係が結ばれます。

このように、子どもたちにとって、語りを体験することは、物語を体験するのみでなく、ふだんの生活とは異なる時間の中で、語り手との関係を結び、音やリズムを持った豊かな言葉の可能性を知ることになるのです。

\*次号は「その9 おはなしを語る（2）おはなしを選ぶ」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

\*\*\*\*\*

## 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

一次資料データベース篇 28 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●くもん子ども浮世絵ミュージアム

<http://www.kumon-ukiyo-e.jp/>

浮世絵は、江戸時代に発達した版画で、歌舞伎や芝居・相撲など、庶民の楽しみであった風俗をさまざまな趣向で描いた絵です。その起源は 17 世紀後半とされ、国内で隆盛を極めたほか、フランス印象派等の絵画にも大きな影響を与えたと言われています。

この浮世絵、子どもが多く描かれていることでも有名です。「くもん子ども浮世絵ミュージアム」では、保有する浮世絵約 1,800 点が公開されており、〈子ども絵〉〈母子絵〉〈子ども物語絵〉〈作るおもちゃ絵〉〈遊ぶ・学ぶおもちゃ絵〉などのカテゴリや、学習・教材・昔話・武者絵・英雄伝・風刺といったさまざまなキーワードが付与されていて、フリーワードで検索することができるようになっています。

例えば、「学習」というキーワードで検索してみると、38 件の浮世絵が抽出されます。寺子屋での学習風景や教科書、さまざまな教育掛図および図解があるほか、昔話では、文化文政期の「山姥・金太郎」は親子が絵双紙で学習をしているというユニークなものもあります。それぞれの浮世絵には、内容（キーワード）を含む書誌情報のほかに解題や作者の情報、位置づけなどが掲載されていて、それも参考になります（ただし一部のみ）。

フリーワードでの検索以外にも、「世界に広がる浮世絵の歴史と広がり」「浮世絵ができるまで」を詳しく説明するページや、また、江戸時代の子どもの遊びやおもちゃ、流行ごとなどを紹介する「江戸時代にタイムスリップしてみよう」などもあり、浮世絵と子どもをめぐる同時代の状況がわかるように工夫されています。江戸期、子どもが周囲から大切に育てられていた様子が伝わってきます。（J）

※次号は、一次資料データベース篇〈その 29〉の予定です。

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

大阪文化館・天保山で開催されている「機動戦士ガンダム展 THE ART OF GUNDAM」に行ってきました。1979 年にテレビアニメとして誕生した「機動戦士ガンダム」は、シリーズの作品がたくさんあり、今も新作が作られています。この展示は初期のガンダムの製作資料が約 1,000 点公開されています。

展示の最初は、オープニングシアター「大気圏突入」です。テーマパークによくあるように、40 人くらいがまとまって誘導されるようになっていて、必ずここから見るようになります。ホワイトベース（戦艦）の中に入り込んだような感じで、目の前で、ガンダムと敵が戦う様子が見られるようになっています。5 分くらいの映像ですが、指令を出すブライト艦長や仲間と、ガンダムに乗って戦うアムロのやりとりに臨場感を感じ、ガンダムの世界に引き込まれます。

そして次の展示に進むと、お話やキャラクターの当初の設定資料や、人々が



夏の家族旅行で乗った近鉄特急しまかぜ限定の「松阪牛カレー」、値段は一般的なカレーの2倍程度。それを求めて、カフェ車両の前に並んだ。かたや、しゃぶしゃぶの牛肉偽装、およそ2年で7千食。その社長曰く、「味の面では大きな差は…」が1食1,500円の差に。いやはや、「松阪牛」のブランド力、恐るべし…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---